

CrossHealth 創業の想い

1. 創業の原点:すべての人の健康を守りたい

私は「すべての人の健康を守る」ことに貢献したいという想いを原点に、薬剤師という道を選びました。両親が臨床現場で尽力する薬剤師であったことも大きく影響しています。

臨床の現場で「すべての人を助けることはできない」と限界を感じ、公衆衛生大学院に進学しました。当初、公衆衛生学修士(専門職)を取得後は教育現場か政策現場に進むつもりでしたが、研究の道に引き寄せられるように博士課程に進学しています。

臨床・研究・教育・政策・財団・国際協力、それぞれの領域に触れる中で、相互の接続が弱く、現場の課題が可視化されにくい構造に気づきました。CrossHealthは、「研究を基盤に」それらをつなぎ直し、知の循環を生み出すプラットフォームです。

2. CrossHealthが挑む3つの社会課題

CrossHealthは、人口減少・高齢社会における地域医療・地域保健の持続可能性を支えるため、特に次の3つの構造的課題に焦点を当てます。

1. 地域で医療が届かない

中山間地域・離島では医療提供体制が崩壊しつつあります。交通・搬送インフラ不足、医薬品ラストワンマイルの問題も深刻です。

2. 人が育たず、続かない

医療従事者・薬剤師は地域に定着せず、人材の偏在やキャリアの閉塞、孤独感に悩まされています。一方で「研究する薬局・病院」が人材獲得に結びつく好事例も見えています。

3. 政策が現場に届かない

政策決定は霞ヶ関中心で進み、現場の声が反映されにくい現実があります。薬学領域ではEBPM(Evidence Based Policy Making)の基盤が乏しく、現場知が政策に届かない状況です。

3. CrossHealthの解決アプローチ: 研究を基盤とした6つの領域

CrossHealthの理念はシンプルです。

「研究したいを、とめない。そして、研究を基盤に知を循環させる。」

研究を基盤に据え、臨床を支え、教育を変え、政策に橋をかけ、財団で循環を実現します。そして、構築した日本の解決モデルを世界に輸出し、国際協力を実現します。これら6つの領域は相互に補完し合い、研究を中心に循環するエコシステムを形成します。

(1) 研究(基盤)

- 現場で研究したい人を、とめない
- 草の根研究の芽を、とめない
- 資金や環境で諦めざるを得ない人を、とめない
- 実践知を研究に昇華させ、社会にエビデンスを残す

(2) 臨床

- 研究を通じて現場を支え、人材の孤立や疲弊を防止する
- 「研究している薬局」が人材獲得に結びつく好循環を広げる

(3) 教育

- 研究で得た知見を教育に翻訳し、現場に役立つ形に加工する
- プライマリ・ケアやパブリックヘルスを薬学教育に持ち込み、学生・臨床家に新たな視点を提供する

(4) 政策

- 現場発の研究データを政策の材料に役立つシステムを構築する
- 独立・中立のシンクタンクとして、現場発のデータを政策につなぐ「翻訳者」の役割を担う

(5) 財団

- 「研究したいを、とめない」ための資金基盤を構築する
- 公衆衛生学修士課程・博士課程進学者への奨学金、若手研究者ファンドを創設する

(6) 国際協力

- 国際的ネットワークで現地の課題と日本の経験を相互に学び合う仕組みを構築し、アジア・アフリカの地域医療プロジェクトに参画する
 - 国際協力を通じて、日本の知見を世界の現場に届け、グローバルビジョンを実現する
-

4. CrossHealthのビジョンと哲学

- 大ビジョン
 - 「すべての人が健康に安心して暮らせる社会を実現する」
 - 中ビジョン
 - 「人口減少・高齢社会においても地域医療・地域保健が持続可能である社会の構築」
 - グローバルビジョン
 - 「日本は課題先進国。ここで得られた知とエビデンスを世界に輸出し、グローバルヘルスの課題解決に貢献する」
 - アカデミックビジョン
 - 「研究と教育を通じてプライマリ・ヘルス・ケアの実現に貢献する」
 - 個人にはプライマリ・ケア、社会にはパブリックヘルスの観点から貢献する
-

5. わたしたちが目指すもの

CrossHealthは、研究・教育・政策・国際協力をつなぐ新しい形の「知の交差点」です。「研究したいを、とめない」という理念のもと、現場の声をエビデンスとして蓄積し、教育や政策へと循環させていきます。

そして、日本の地域で積み重ねた知見を世界へと輸出し、同じ課題に直面する国や地域の解決に役立てていきます。

薬剤師という専門性を超えて、「越境と連携」をキーワードに、地域・職種・世代・国境を横断しながら、未来の地域医療・保健をともに支える仲間とネットワークを築いていきます。

あなたの研究の芽が、地域や世界を変える力になります。共に挑戦しましょう。

CrossHealth 代表

木内 翔太 / Shota KIUCHI